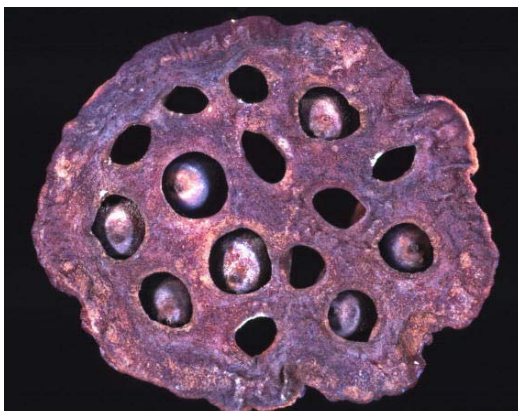


## 《自然のタネ蒔き : その 5 . 水散布ほか》

川や湖などに流されて、あるいは潮の流れに乗って運ばれていくタネたちもいます。

### ① 川や湖など淡水に流されて…



左は校庭にもある  
ジュズダマ。実が浮  
き袋のような構造を  
して、川の水に  
流されて運ばれるの  
で、よく水路沿いに  
分布しています。

右はハス。茨城県  
南部はハスの栽培が盛んなようで、あちこちに蓮田が見られ  
ますね。蜂の巣のように見えるのは「花床」とよばれる部分  
が発達したもので、「はちす」が「ハス」の語源となったよ  
うです。そのなかの種子のように見えるのが果実です。

### ② 潮の流れに乗って…



左上は「椰子の実」の歌で  
有名なココヤシの実です。栄  
養たっぷりのやしの実ジュ  
ースを蓄えてぷかぷかと運ばれ  
ていきます。

左下はゴバンノアシ。碁盤  
の脚に似ているところからつ  
いた名ですが、写真の果実は  
もう芽が伸びだしていますね。

右はモダマ。マメの仲間  
ですが、さやの大きさは世界最  
大で長さ 1 m にもなるそう  
です。

(ジュズダマ以外は八田氏撮影)

いろいろな種子散布の方法を紹介してきましたが、動物散布のオナモミなどひつつき虫の果  
実や貯食型のオニグルミ、風散布のヤナギの果実などは水にも浮きやすく、水散布でも運ばれ  
るようです。またドングリなど貯食型の果実は運ばれなければ下に落ちてそこで芽生えます。  
遠くへ運ばれることにはなりません、その場に子孫を残せる可能性があります。皆それぞ  
れの方法で、それぞれの地で根を張り、精一杯に生きているのです。 [理科支援員 宮内]